

◆準備段階におけるルール

- 教員ならびに大学院生は、学生による準備のいかなる段階においても一切関与してはならない。クリーンルーム原則の見地から、学生の準備会にも立ち会ってはならない。ゼミの時間を使う場合でも、その場に教員・大学院生が立ち会ってはならない。
- 参加学生は自分たちのノウハウで準備をすること。一般的な図書館レベルでの助言のほかは、文献情報なども含め一切アドバイスを受けてはならない。
- レジュメはB4(表裏含めて)1枚とする。
- 「レジュメ原稿は、印刷準備の都合上、**原則3日前**までに下記のメールアドレス宛に、ファイルを添付の上、**12月17日(水)16:00**までに提出すること。

提出先アドレス【houzemirenn@yahoo.co.jp】

但し、上記の期日までに提出がなかった場合には、当日**午前9時30分**までに受付に、各ゼミの責任と負担のもとに、必要部数分印刷の上、持参すること。

※ 部数は人数が確定次第連絡します。

◆当日の立論・質疑応答ルール

- 発表者は5人以内。
- 黒板使用不可。
- 壇上への持ち込み資料はすべて可。
- 報告時間は1チームあたり**10分以内**とする。時間超過は減点の対象となる。時間を著しく超過した場合、報告を中断させることがある。
- 報告後、1分間のインターバルの後に、質疑応答に入る。質疑・応答時間は**13分以内**とする。なお、13分を経過時点で質疑応答がなされている場合は、その続行を認めることができる。
- 質問者は挙手し、原則として早い者から指名する。もつとも、特定のゼミ・人物に偏らないように配慮する。
- 質問者は、まず所属ゼミと氏名を述べ、質問は簡潔・明瞭に行うように努めること。
- 報告チームは、質問終了時から1分以内に応答すること。1分以内に応答がない場合、無回答とされ、次の質問に移る。
- 関連質問についての注意

例：質問者Aに対し発表者Xが回答し終えてから、質問者BはAについての関連質問をすることは可能であるが、Aに対するXの回答の前に、Bが関連質問をはさむことはできない。

<採点(投票)ルール>

- ・各チームに対する評点は、投票によって行う。

立論に対する投票

- ・投票権は今回、すべての討論を聞いた教員並びに各個人に与えられる。尚、すべての討論を聞いた一般見学者にも投票権を認める。
- ・各個人、及び教員共に、該当用紙に各ゼミに対し、最大で各**10点**を限度として評価をする。

(例：Aゼミ=5点、Bゼミ=9点、Cゼミ=7点・・・)

(得点の算出方法)

→学生票の得点・教授票の得点の合計点数をそれぞれ有効投票数で割って平均し、その学生票の平均点と教授票の平均点を合計したものが、獲得点数とする。

※学生は、自分の所属するゼミに対し採点しない

※投票の結果、同点のゼミが出た場合、教員票の平均点数の高いゼミを高順位とする。

優秀質問者投票

- ・投票権はすべての討論を聞いた教員並びに学生に与える。尚、すべての討論を聞いた一般見学者にも投票権を認める。
- ・優秀質問者の投票については、優秀だと思われた質問者1名の氏名及び所属ゼミ名を該当欄に記入する。記入された氏名がどの質問者を指すのか判別不可能な場合は無効票とする。

◆採点基準

- ・報告の姿勢が良かったか。
- ・報告の趣旨・内容・結論が明確であったか。
- ・結論を導く根拠、法律構成が明確に述べられていたか。
- ・根拠は客観的であり、説得力があったか。
- ・質問を正確に理解し、それに対して答えられたか。